

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念	(理念)「ゆっくり、ゆったり、けれどもしっかり」「あったか地域であったか交流、みんなで作ろうあったかの輪」を玄関、フロアに掲げ日々のミーティングの中でも常に唱和にしています。		
	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
	○理念の共有と日々の取り組み			
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時、(理念)を職員一同で唱和し、何時も意識してケアに当たるように心掛けています。		
	○家族や地域への理念の浸透			
3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に	家族会、地域交流会、運営推進会議の中また、老人会「いきいきサロン」等に参加し理念、方針を説明し理解していただけるように取り組んでいます。		
	した理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる			
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい	隣近所の方と、挨拶を交わし、野菜を持ってきていただいたり、食事のお誘い、出来たものをおすそ分けしたりして交流を図っています。また、入居者様が庭を散歩中にご近所の方と気軽に話しをしている場面も見られます。		
	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている			
5	○地域とのつきあい	地域の文化祭、運動会に参加。毎月の地域交流会、年1回の家族、地域交流会、地域の祭り、老人会「いきいきサロン」等に積極的に参加し交流を図っています。また地区の小学生がボランティアとして参加してくれたり、社会科見学で訪問してくれたり地域の子供たちとの交流もあります。更に、年に一回、全グループホームの忘年会にて各地域のお世話になっている方々をお招きし、地域内外の交流が一層深く取れるようにしています。		
	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			

6	○事業所の力を活かした地域貢献	運営推進会議に地域の民生委員、包括支援センター、市社会福祉協議会の支部長、消防署の方、入居者様のご家族等の出席を頂き情報交換や、ご意見をいただいています。地域の方から、「楽しかった、次は何をするんだろう」と、期待される言葉を頂いています。		
	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用	前回の評価を基に改善するように努めている。評価を受けることで、又新たな気持ちでケアに取り組んでいます。サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいます。		
	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
8	○運営推進会議を活かした取り組み	事業所からこの2ヶ月の取り組みと今後の報告を行い、委員の方からそれぞれの情報、アドバイスを頂きサービスの向上に努めています。		
	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
9	○市町村との連携	鹿児島市から介護相談の派遣や情報を頂いたりしています。職員も研修等に参加し、サービスの質の向上に努めています。		
	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用	研修等に参加し学んだことは、勉強会、ミーティング等で報告し、情報の共有を行っています。		
	管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			
11	○虐待の防止の徹底	虐待について具体的に説明し、見過ごすことが無いように注意を払い、防止に努めています。毎月のミーティングの中で再確認しています。		
	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得			
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居前、家族会等で時間を取り、丁寧に説明を行い理解、納得していただいています。退去後のアフターケアは運営者、職員共に携わり支援しています。契約の改定のあった場合、直ちに家族会を開き、入居者様・ご家族等にわかりやすく説明することで理解・承諾を頂けるように努めています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映			
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様と1対1で話す機会を持ち意見、不満、苦情は無いか聞く機会を持つようにしています。介護相談員の訪問時は入居者様が自由に相談出来るように配慮しています。		
14	○家族等への報告			
	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の手紙による近況報告や、電話による健康状態の報告、又ご家族来訪時、出納帳確認後サインを頂いています。年2回定期的に、また、職員の異動などがあった場合は臨時に「あったか便り」を発行し、入居者様の生活ぶりや、行事・新しい入居者様の紹介などを、写真を交えてご家族に報告しています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映			
	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口に意見箱を置き、また、責任者、第三者委員の電話番号を掲示しており、日頃から、気軽に相談して下さる様に話しています。面会時お見送りするときに、入居者様の変化について気付かれた事、またご要望等ついて何うようにし、入居者様、ご家族様の意向に添えるように努力しています。		
16	○運営に関する職員意見の反映			
	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会で運営者に職員の意見や提案を話し、翌日のミーティングで報告、反映するようにしています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整			
	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	特別な催し物を開催するときの人員の増員、緊急時にも対応できるように、人員を揃えています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮			
	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員間の交流を大事にして馴染みの職員で入居者様、又ご家族を支援しています。新しく入職した場合は馴染みの職員と一緒に行動し、入居者様・仕事に馴染んでから1対1のケアを行うようにし、入居者様が安心してくださる様に心掛けています。		

5. 人材の育成と支援

19	○職員を育てる取り組み	管理者、職員の質の向上に向けて、必要に応じた研修を紹介し、積極的に取り組むように奨励しています。また、資格取得等の勉強会を法人内で開催し参加を促しています。研修や勉強会で学んできたことはミーティングなどで報告する場も設けています。		
	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
20	○同業者との交流を通じた向上	同系列の施設があり、常に情報交換を行い、お互い良い点を取り入れるように努めています。また、地域の方々、施設と一緒に講義を聞きその後情報交換をおこないました。今年度から地域包括支援センターを中心に地域の施設との意見交換の場を持つようと、計画されています。		
	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み	職員の希望により懇親会の場所を決めています。また、職員の家族等も参加できるシステムで、職員の家族ぐるみでの懇親会を行っています。		
	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる			
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み	職員それぞれの特技や資格を生かした各担当を決め、また入居者様に充分配慮した担当決めをし、個々の力を発揮できるように努めています。また、職員の資格取得に向けた支援を積極的に行い、資格取得後は本人の意向を重視し、労働環境作りに努めています。		
	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係	ご本人、ご家族様より、本人の経歴、性格、嗜好等の情報を引き出しより良く知ることコミュニケーションを円滑に行い、信頼関係を築いていけるように努めています。これまでの人生経験や、得意とすることが、常に日常生活に活かせるようにしています。		
	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている			
24	○初期に築く家族との信頼関係	家族、特に現在まで一緒に暮らして来られた方より、その人らしく暮らしていただけるための情報を多くいただけるように努めています。家族の状況を把握し信頼関係を作るように努めています。		
	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている			

25	○初期対応の見極めと支援			
	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のニーズに応じて初期面談に、しっかり時間をかけています。必要であれば他のサービス担当者とも連携を取り、情報収集等をした上で、より良い支援ができるように取り組んでいます。		
26	○馴染みながらのサービス利用			
	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人やご家族に事業所を見学してもらうことから始め、ご家族より、入居者様の性格、趣味等の情報を頂き、他の入居者様、職員と馴染んでいけるように工夫し、徐々に自身の生活パターンが出来るように支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係			
	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクリエーションの中に、回想を行い昔の話、歌、得意な料理、好きな献立、作り方を習ったりして、コミュニケーションを取り合う中で信頼関係を深めることに努めています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係			
	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対して家族会や敬老会等の行事、手紙や面会時電話等にて、意見交換、連絡、報告、相談を行い、安心して頂けるように努めています。園外行楽等のお誘いも行っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援			
	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会での交流、手紙での近況報告、面会後のお見送り時は日常生活の状況、健康状態、ご本人の表情等も加え報告し、また来て頂けるように話しています。ご家族、ご本人の思いや状況をくみ取り、外出や外泊・面会で家族と共に過ごす事を勧めたり、行事にご家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援			
	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご親戚、お友達、地域の方々に、これまでの関係を継続できるように声掛けを行っています。地域の行事への参加、馴染みの風景のドライブも楽しみの一つとなりました。		
31	○利用者同士の関係の支援			
	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶や、レクリエーションの時は、スタッフも一緒に入り、特にコミュニケーションの苦手な方には職員が繋ぎ役を務める等し、円滑な人間関係が持てるようにしています。		

32	○関係を断ち切らない取り組み	環境の変化によるダメージが、最小限に済むようにプライバシーに配慮し、ご家族様の協力をいただきながら支援しています。		
	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握	買い物や園芸等、お一人おひとりの暮らし方の希望、意向に添った生活が出来るように努めています。困難な場合は、ご本人の体調に合わせた日課を、ご家族と共に検討し改善できるように努めています。		
	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
34	○これまでの暮らしの把握	入居時に、ご本人、ご家族より情報を頂き、ホームでの生活に活かせるように努めています。地域に出て行くことで馴染みの方との出会いがあります。		
	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
35	○暮らしの現状の把握	ご本人の意向、心身の状態、残存機能を把握し、その人らしい生活を送れるように努めています。		
	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画	ご本人やご家族様、スタッフの意見を取り入れ、ニーズの見極め、負担にならない程度の生活リハビリを取り入れ、ご本人の有する力の維持、向上に向けたプランを作成しています。		
	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
37	○現状に即した介護計画の見直し	毎日のケアチェックを行いながら、気づきを書き留め、担当者会議で話し合い、新たなサービス計画を作成するようにしています。また、状況の変化時は担当者会議で話し合い、現状に即した計画を作成しています。		
	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			

38	○個別の記録と実践への反映	日々の様子や、ケアの実践をケアプラン評価表に記入し、情報を共有しながら実践し6ヶ月毎に介護計画の見直しに活かしています。状況の変化があるときは、その都度作成し直すようにしています。		
	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援	医療連携を活かして入居者様の健康管理に配慮し日常的な安定を図っています。また、必要に応じて、通院等の支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努めています。		
	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働	地域交流会、地域の行事等への参加、民生委員の方のボランティア、地域、学校行事への参加等させて頂いています。消防署の協力で避難訓練は年2回行っています。		
	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している			
41	○他のサービスの活用支援	訪問理・美容サービスを利用してもらい、カットや髪を染めたりパーマをかけたり、ご本人のご希望に沿うようにしています。		
	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、地域包括支援センターの方にも参加して頂き助言を頂いたり、情報交換を行う事で、信頼関係を築いています。		
	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援	ご家族の了承を得て、定期健診、居宅管理指導を受けながら適切な医療が受けれるように支援しています。また緊急時の主治医との連携、協力機関との医療連携体制も整っています。		
	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

44	○認知症の専門医等の受診支援	協力病院があり、随時、認知症の専門医と相談しながらケアに努めています。		
	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している			
45	○看護職との協働	看護職員を配置しており、常に入居者様の健康管理や状態の変化に応じた支援を行えるようにしています。看護職員のいない時間は介護職員の記録をもとに確実な連携を行っています。		
	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			
46	○早期退院に向けた医療機関との協働	入院時には本人への支援方法に関する情報等、協力病院と情報交換を密に行い、状況に応じて食事介助したりために職員が見舞うようにし、早期退院に繋がるように連携しています。また、家族とも回復状況等の情報交換をしながら、速やかな退院支援に結びつけるようにしています。		
	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している			
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有	ご本人ご家族様へ「見取りの指針」について説明を行い、協力病院Drと相談し全員で方針が共有できるようにしています。ご本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と話し合い入居者様が安心して終末期を過ごせるように取り組んでいます。急変した場合は、すぐに対応できるように、協力病院とも密に連携を図り、対応しています。		
	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援	ご家族様、協力病院、介護スタッフと相談し、臨機応変に対応できる体制を準備し、ご本人ご家族が無理なく安心して過ごせるように努めています。		
	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている			
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止	ご家族と十分な話し合いをし、また、移られる先へはサマリーをお渡し、情報共有をしたりとホームで出来る支援は最大限させていただいています。		
	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底			
	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様は、人生の先輩であることを心に刻み、誇りやプライバシーを損なうことの無いように心がけています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援			
	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の思いや希望を聴きながら、能力に合わせた説明を行い、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように、困難な方には、家族、職員で相談しながら支援しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし			
	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、その人らしく、その日の体調に合わせた生活が送れるように支援しています。起床時間や入浴時間、散歩等、お一人おひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応しています。		
s				
53	○身だしなみやおしゃれの支援			
	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容は、ホームに来ていただき行っており、パーマをかけたり染めたりとおしゃれを楽しんでおられます。服装の選択は出来る方は、ご本人に任せ、出来ない方は一緒に支援しています。行事等の時はTPOに応じた装いが出来るように支援しています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援			
	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの味付け(味見をしてもらう)、食べやすい形態、使い易い食器と持ちやすい量の配慮、ゆっくり食べられる時間の設定に心がけています。片づけは出来る範囲ですて頂き、職員も一緒に食事、サポートの必要な方に隣に席を取り、介助をしています。		
55	○本人の嗜好の支援			
	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒー、紅茶はおやつの時に好みのものを提供するようにしています。個人で所有されている方には、いつでもお湯が使えるように支援しています。お酒の好きな入居者様と一緒に好みのお酒を買いに行ったり、夕食時に楽しめるように支援しています。		

56	○気持ちよい排泄の支援	排泄のパターンの把握と、食前、食後、就寝前等習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援しています。		
	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している			
57	○入浴を楽しむことができる支援	健康状態、精神的(ご本人が気乗りしない時は、時間を置いて声掛けをする、または翌日にする。)状況を見ながらお一人おひとりの希望に沿った時間設定するようにして支援するように努めています。体調が悪い時は、清拭や足浴を行っています。		
	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			
58	○安眠や休息の支援	入居者様お一人おひとりの睡眠パターンを把握し、生活活動を日中にしていただくことにより、夜間睡眠の支援をしています。夜間浅眠の方は午睡を促しています。		
	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している			
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	テレビ・音楽・新聞等その方の身体能力に応じた役割、楽しみごとを取り入れ、張り合いのある生活が送れるように支援しています。		
	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
60	○お金の所持や使うことの支援	お金の管理の出来る方は、ご自分で所持し、買い物時にご自分で支払ってもらうなど自由に使えるように支援しています。管理が出来ない方に対しては、管理についてはご家族と相談した上で買い物が出るように支援しています。		
	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
61	○日常的な外出支援	散歩やドライブ中庭でのお茶会食事をおこなっています。また、地域の行事への支援も行っています。		
	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
62	○普段行けない場所への外出支援	ご家族を誘って健康の森公園への1日遠足等を行っております。団体行動を敬遠される方には、別メニューでドライブ等を取り入れています。		
	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している			

63	○電話や手紙の支援	本人自ら電話したり、手紙のやり取りが出来るように支援しています。手紙が困難な方は、暑中見舞いや年賀等の時添え書きをお願いしています。		
	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
64	○家族や馴染みの人の訪問支援	気軽に訪問していただけるように努めています。お客様にもお茶等を差し上げ、帰られる時は、必ずお見送りをさせていただき、またの訪問をお願いしています。地域、近所の方にお会いした時は、いつでも、遊びに来てくださいと声掛けています。		
	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している			
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践	ミーティング時また転倒、転落の恐れのある方がいらした場合は、その都度話し合いを設け、対策を検討するとともに、身体拘束についての勉強会をしています。		
	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる			
66	○鍵をかけないケアの実践	玄関。居室は、常に開放しており、外に出たい方においては、一緒に散歩したりしています。		
	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
67	○利用者の安全確認	昼夜共に、巡視を行い、プライバシーに配慮しながら、入居者様の所在を把握し、24時間入居者様の安全に配慮しています。		
	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している			
68	○注意の必要な物品の保管・管理	入居者様の能力に応じて、ハサミ等の所持を検討し、一緒に管理するようにしています。		
	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている			
69	○事故防止のための取り組み	勉強会にて学び、お一人おひとりの状態に応じた事故防止に努めています。また、事故にならなくとも、ひやりとした時など、ヒヤリハットとして、記録に残し皆で再確認するようにしています。万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、ご家族への説明と報告を行っています。		
	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる			

70	○急変や事故発生時の備え			
	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習を受けており、また常に医療機関、主治医との連携体制を取り、勉強会も行っています。防災訓練は年2回行っています。		
71	○災害対策			
	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っており、日々避難に対してスタッフ同士で話しあっております。地域交流会等を通し地域の方にも協力をお願いをし参加して頂いています。車椅子の方でも通りやすいように避難経路も整備しました。非常食。飲料水、捕食も準備しています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い			
	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒、健康状態の変化、集団生活による感染の可能性等を、入所時、家族会、面会時に話し、理解していただきながら、ご自分のペースで安全に生活が送れるように努めています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応			
	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル、食事、水分量のチェック、活気等の記録、それらの情報を共有すると共に申し送りをし、いつもと違うときは、主治医に報告し、協力病院と連携し重症化しないように努めています。		
74	○服薬支援			
	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の申し送り簿と、口頭の両方にて確認しながら、症状の変化の確認に努めています。服薬後は異常がないかを確認しています。また、薬剤師を迎えて、勉強会も実施しました。		
75	○便秘の予防と対応			
	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	十分な水分、繊維性の食品の摂取、散歩をするように心がけています。便の性状を確認しながら、むやみに薬に頼らないようにしています。		
76	○口腔内の清潔保持			
	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けを行い、出来ない方には、誘導して歯磨き、義歯洗浄、嗽の介助を行っています。必要に応じて歯科医の診察を受けております。		

77	○栄養摂取や水分確保の支援	食事量、水分量をチェックして不足している方、飲み込みの悪い方は、代替食やエンシュア・とろみ(ゼリー等)を準備して、栄養摂取を確保出来るように支援しています。		
	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
78	○感染症予防	外出時のマスク着用、外出から帰った時は手洗い嗽を行うようにしており、日頃より、湿度に注意し消毒等もまめに行っています。流行時は、玄関に、張り紙をしたり、入居者様のインフルエンザ予防接種についてもご家族の方にも協力をお願いしています。感染症に対する資料も常に目を通すようにしています。		
	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)			
79	○食材の管理	布巾、まな板の消毒、食材は新鮮な物を選び、冷蔵庫内の食材の管理も行っています。食中毒の時期は加熱するようにし、調理に携わる者は、専用のエプロン、三角巾を使用しています。また常に、手洗いの励行に努めています。		
	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫	玄関には季節の花を植え、建物の周囲には、木を植え親しみやすくまた、季節感を味わえるように工夫し、門も常に開放しております。		
	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている			
81	○居心地のよい共用空間づくり	室内の照度や温度、湿度、臭いには気を配り、食堂のテーブルには生花や鉢を飾り、壁は落ち着いた配色にしています。		
	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり	皆でくつろぎ談笑するテレビの前と、2箇所ソファを置き寛げるようにしています。テーブルを囲んでも楽しく談笑されています。		
	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			

83	○居心地よく過ごせる居室の配慮	ご家族、ご本人と室内のレイアウトを相談し使いやすい配置、使い慣れたものがあれば持ってきていただき、ご本人が居心地良く暮らせるように工夫しています。		
	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			
84	○換気・空調の配慮	定期的に換気を行い、温度湿度もチェックしながら、外気温を留意し、必要に応じ冷暖房を入れています。		
	気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている			
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内はバリアフリー設計になっており、安全に出来るだけ自立した生活が送れるように工夫しています。		
	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			
86	○わかる力を活かした環境づくり	ご家族に協力を得て、それぞれの、個性のある居室の空間づくりに努めています。		
	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している			
87	○建物の外周りや空間の活用	施設の庭に遊歩道を設け、車椅子の方でも散策できるようにしており、室内からでも見えるように花や野菜を植え、入居者様と一緒に収穫の喜びを共有しています。		
	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている			

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様お一人おひとりの個性を大事にし、個々のペースに合わせ、得意な事、今まで習慣にしてきた事を大事にし、家庭的な雰囲気の中で、毎日を笑顔で安心した生活が送れるようスタッフは笑顔で挨拶、声掛けに努めています。入居者様方が、庭に出て花見を楽しんだり、日光浴、茶話会をしたり、季節の野菜と一緒に収穫したり、生きがいのある生活が送れるように支援しています。また、運営推進会議の活用により、地域との交流も盛んとなり、毎月の地域交流会、老人クラブや地域の運動会への参加、文化祭への作品出品、小学校の社会科見学、小学生や地域の方によるボランティア活動、家族・地域交流会と地域社会との接点も多く持っています。また、常に医療機関と連携できる体制作りに努め、ご本人様やご家族様の相談、報告をし、安全かつ安心して、当ホームで過ごしていただけるように最大限の努力をしております。